

## 富士山の火山活動解説資料（令和2年7月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1）

萩原監視カメラ（富士山山頂の東南東約18km）による観測では、噴気は認められません。

#### ・地震や微動の発生状況（図2、図3）

火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。

火山性微動や浅部の低周波地震は観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図4、図5）

GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

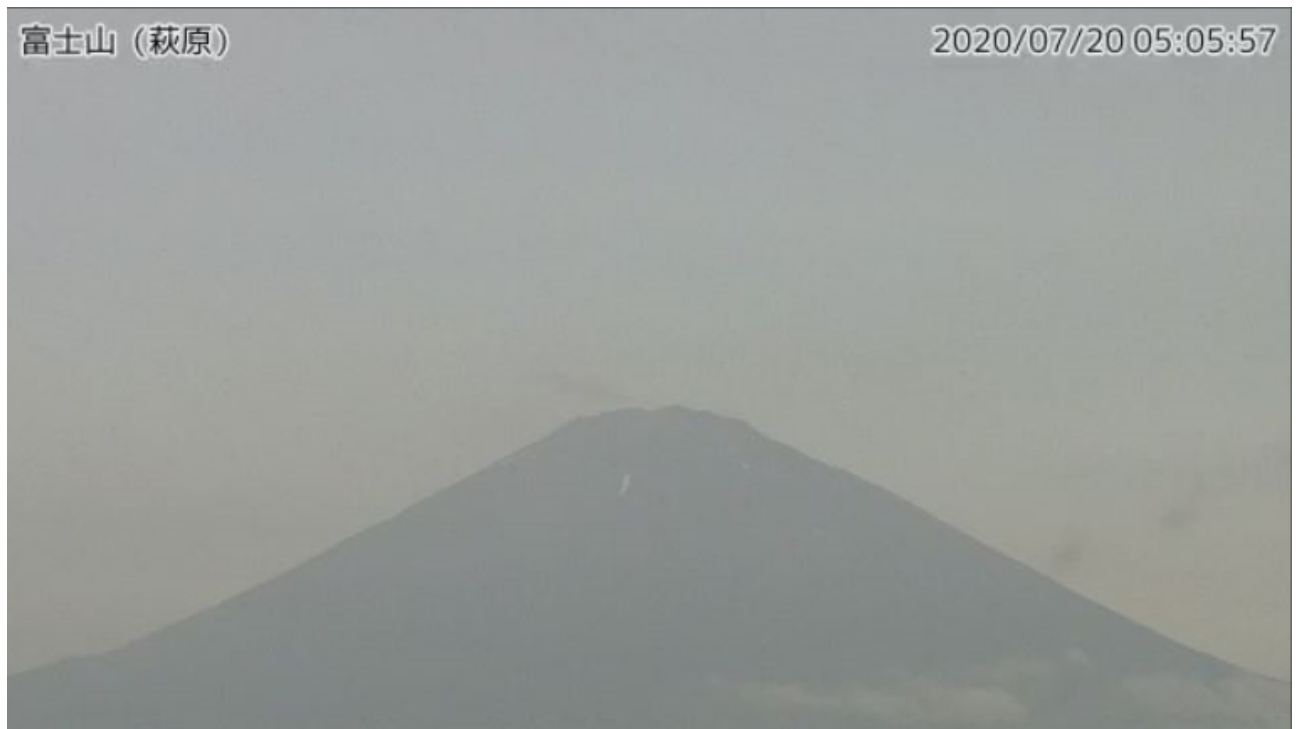


図1 富士山 山頂部の状況（7月20日 萩原監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和2年8月分）は令和2年9月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、山梨県及び神奈川県温泉地学研究所、公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

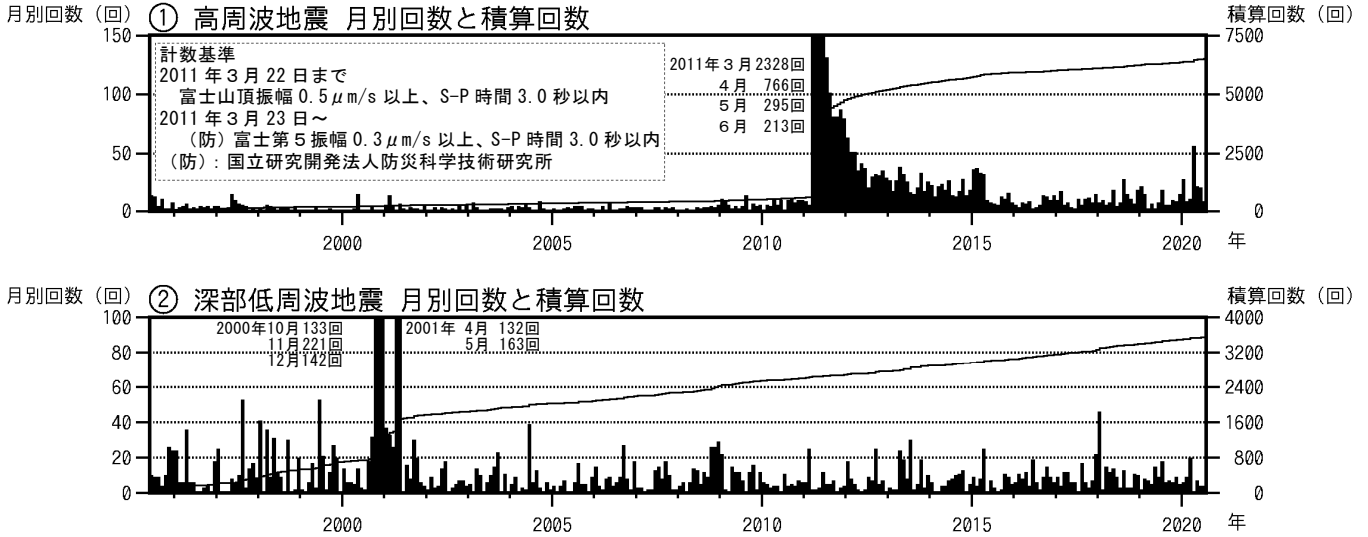


図2 富士山 月別地震回数（1995年6月1日～2020年7月31日）  
・2011年3月15日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したM6.4の地震以降、地震活動が活発な状況となっていました。2016年以降、発生前の状況には戻っていないものの、低調に経過しています。

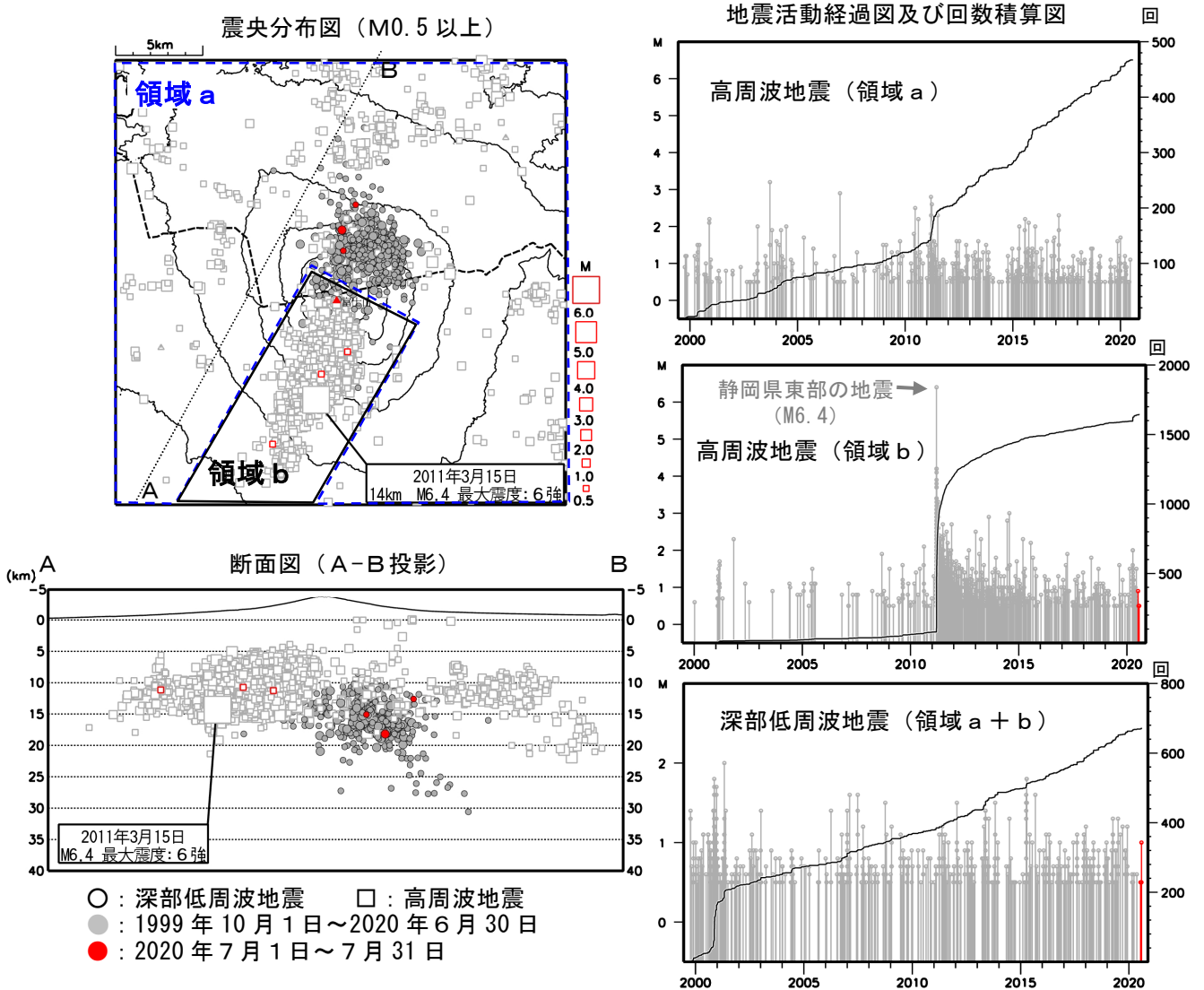


図3 富士山 広域地震観測網による山体及び周辺の地震活動（1999年10月1日～2020年7月31日）  
広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。  
M（マグニチュード）は地震の規模を表します。図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。  
2020年4月18日以降の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。  
・火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。

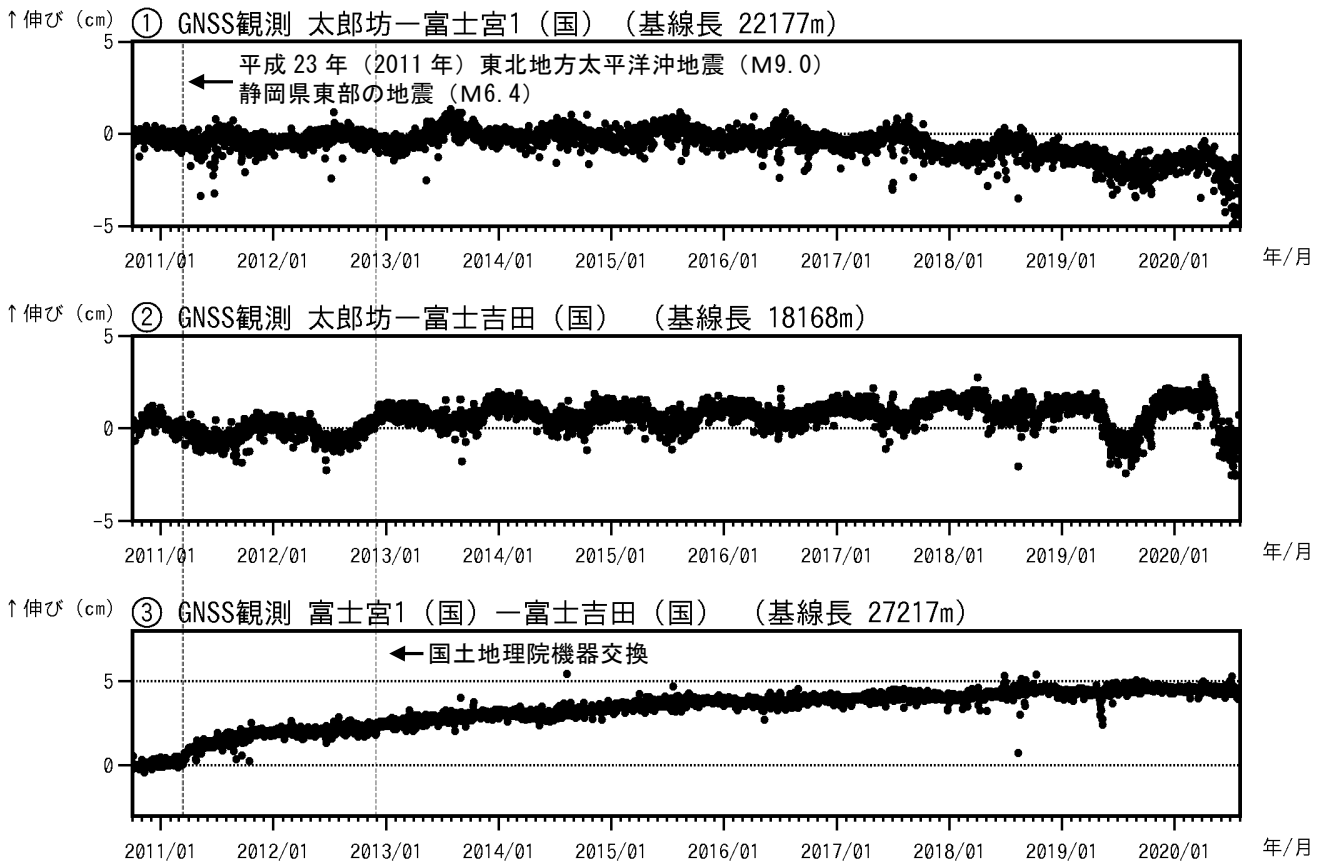


図 4 富士山 GNSS 連続観測による基線長変化 (2010 年 10 月 1 日~2020 年 7 月 31 日)

(国) : 国土地理院

「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」及び 2011 年 3 月 15 日に発生した静岡県東部の地震 (M6.4) によるステップ状の変化を補正しています。

①~③は図 5 の GNSS 基線①~③に対応しています。

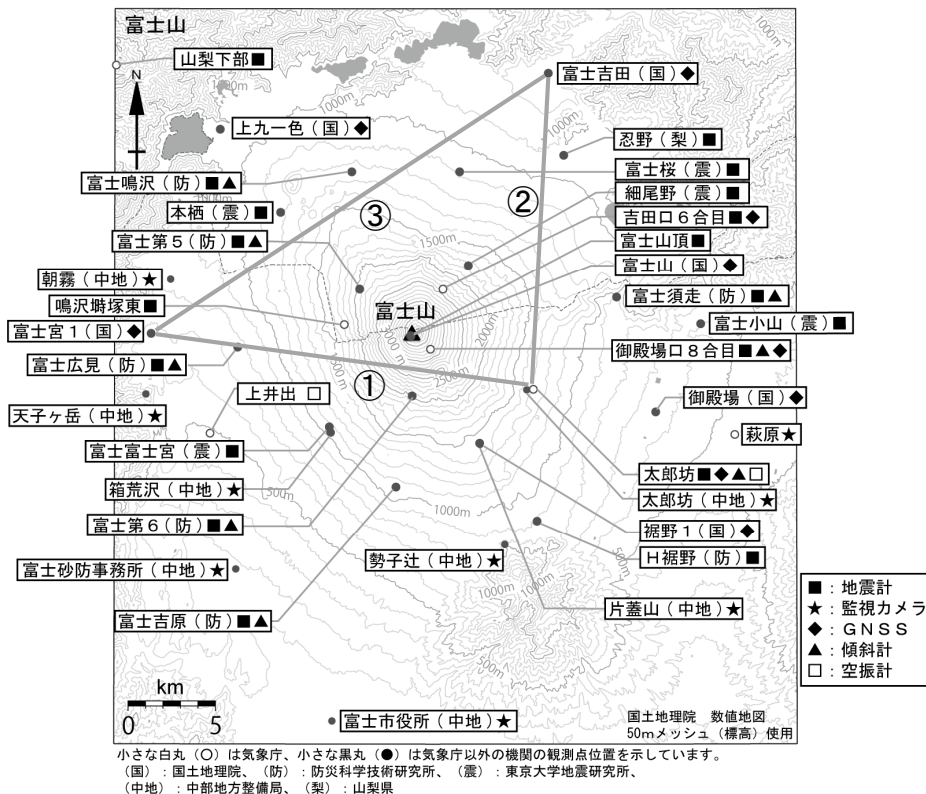


図 5 富士山 観測点配置図

GNSS 基線①~③は図 4 の①~③に対応しています。